

Working with Final Cut Pro X and AJA

Information in This Bulletin is Subject to Change

June 20, 2011

ユーザーズ ガイド

Because it matters.

AJA[®]
VIDEO SYSTEMS

商標

AJA®、KONA®、XENA®は、AJAビデオシステムズ社の登録商標です。Ki Pro、Io Express、Io HDとIoは、AJAビデオシステムズ社の商標です。Apple、Appleロゴ、AppleShare、AppleTalk、FireWire、iPad、iPod Touch、Mac、Macintoshは、アップルコンピュータ株式会社Final Cut Proの登録商標です。QuickTime、QuickTimeロゴは、アップルコンピュータ株式会社の商標です。

著作権

Copyright © 2011 AJA Video Systems, Inc. 無断転載禁止。本マニュアルに記載したすべての情報は、予告なしに変更されることがあります。AJA Inc. の明示的な書面による許可なしに、本書のいかなる部分も、コピーや録音を含む、電子的または機械的な、いかなる形あるいは手段によっても、複製したり、送信したりすることは禁じられています。

サポート窓口

株式会社 アスク・アスク DCC サポートセンター

TEL: 03-5215-5694 FAX: 03-6672-6858 メール:dcc@ask-corp.jp 営業時間:平日
10:00 ~ 17:00(12:00 ~ 13:00 を除く)

AJA日本語サイト <http://www.aja-jp.com/> AJAサイト <http://www.aja.com/>

Final Cut Pro X and AJA

イントロダクション

Appleから新しく発売されたFinal Cut Pro Xは、映像業界で広く利用されてきたFinal Cut Proの最新版です。ユーザーインターフェースは刷新され、映像編集者を刺激するさまざまな特徴を備えています。

しかし、サードパーティ製品（AJA KONAカードなど）との連携動作に関しては、以前のバージョンとは全く異なりますので注意が必要です。このドキュメントでは、どのように最新版のFinal Cut ProでAJA製品を使用することができるかについて述べます。

Final Cut Pro X 推奨設定

皆さんはすぐにFinal Cut Pro Xを使いたいかもしれませんが、前バージョンで制作中のプロジェクトがまだ残っているかも知れません。AJAは以前のFinal Cut ProとFinal Cut Pro Xを同じシステムにインストールすることを推奨しません。新規にSnow Leopard OSをインストールした起動ディスクドライブを作成し、そのドライブへFinal Cut Pro Xをインストールすることを推奨します。こうすることで、以前のFinal Cut Proを使いながらも、AJA KONA X Betaドライバと新しいFinal Cut Pro Xを使い始めることができます。

ノート：AJA製品が必要とするシステム構成については、AJAウェブサイトのドキュメンテーションを参照ください。Apple Final Cut Pro X の推奨システム条件については、Appleのウェブサイトを参照してください。

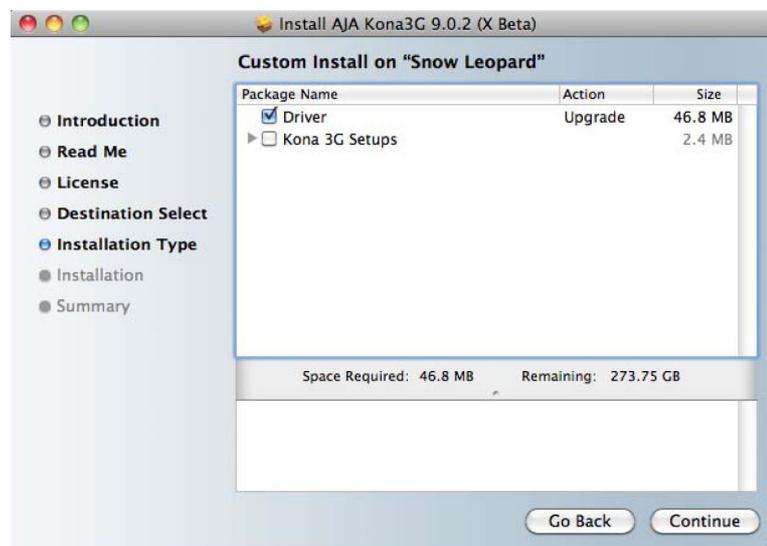
PART 1 : Final Cut Pro Xからのビデオ出力

AJA KONA X Beta Driverのインストール

Final Cut Pro Xで使用可能なKONA製品の為に提供されるAJA KONA X Betaドライバーは、AJAウェブサイトからダウンロード出来ます。KONAをインストールしてFinal Cut Pro Xを使用する場合は、この新しいAJA KONA X Betaドライバーの使用を推奨します。

ノート：使用するKONAがドライバーのサポート対象に含まれることを確認して下さい。

今までのドライバーはインストール時に、Final Cut Proで使用する簡易セットアップを選択しインストールする必要がありましたが、Final Cut Pro Xには簡易セットアップが無い為、ユーザーがこれらをインストールする必要はありません。

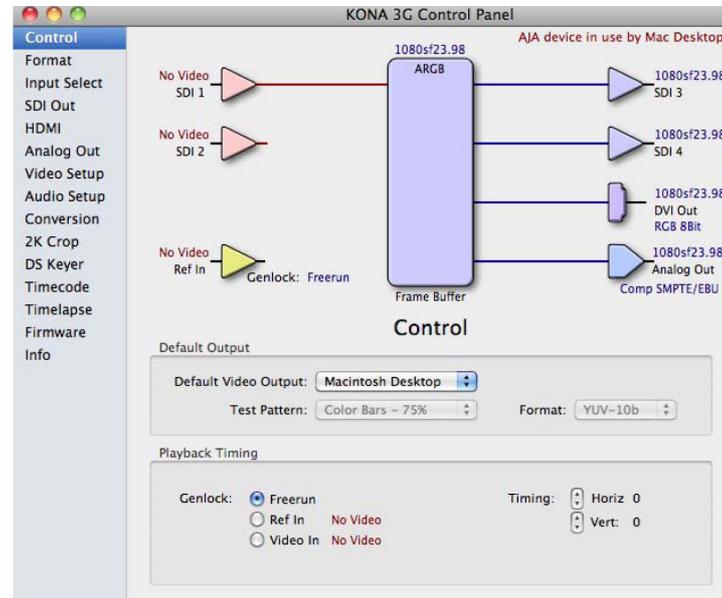


ドライバーのインストールが完了すると、コンピュータの再起動を求められます。

AJA コントロールパネルの設定

KONAをFinal Cut Pro Xで動作させるファーストステップは、AJA コントロールパネルアプリケーションを起動することです。

起動時には以下のControlスクリーンが開きます。



この中にある、Default Video Outputのプルダウン項目から、「Macintosh Desktop」を選択します。これにより、KONAに接続されているビデオモニタをMacintoshのセカンドデスクトップモニタとして使用できるようになります。

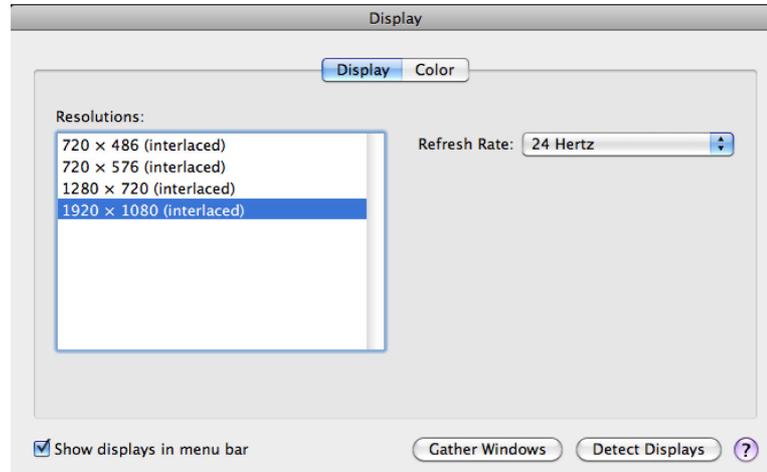
デスクトップを適切に設定する方法

デスクトップの設定はMac OSの「システム環境設定」>「ディスプレイ」で行います。

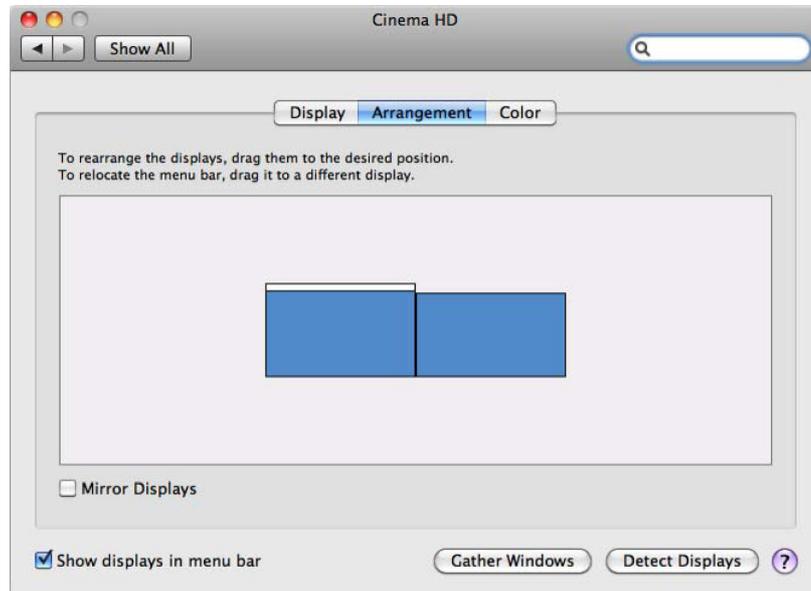


「ディスプレイ」では、使用したい解像度とフレームレートを設定します。

ノート：すべてのビデオモニタがKONAの動作するすべてのフォーマットに対応できるわけではありません。進行するプロジェクトにとって適切で、ビデオモニターが対応出来る解像度とフレームレートを選択して下さい。



「システム環境設定」では、セカンドデスクトップモニタに位置を実際の配置に適した位置に変更することが出来ます。



ファインダーのメニューバーからフォーマットとフレームレートを変更出来ると便利であると感じると思います。そうしたい場合は、ウインドウ左下のチェックボックスにチェックを入れて下さい。これによりファインダーのメニューバーにあるディスプレイアイコンから、設定をコントロール出来るようになります。

ノート：「最近使った項目の数」を10にすると、使用できる可能性のあるすべてのフォーマットを表示できます。

Detect Displays
Turn On Mirroring

Cinema HD
 800 × 500
 800 × 600
 800 × 600 (Stretched)
 1024 × 640
 1024 × 768
 1024 × 768 (Stretched)
 1344 × 840
 1600 × 1000
 1600 × 1200
 ✓ 1920 × 1200

Display
 720 × 486 29.9 Hz (Interlaced)
 720 × 576 25.0 Hz (Interlaced)
 1280 × 720 59.9 Hz (Interlaced)
 1280 × 720 60.0 Hz (Interlaced)
 ✓ 1920 × 1080 23.9 Hz (Interlaced)
 1920 × 1080 24.0 Hz (Interlaced)
 1920 × 1080 25.0 Hz (Interlaced)
 1920 × 1080 29.9 Hz (Interlaced)

Number of Recent Items ▶
 Displays Preferences...

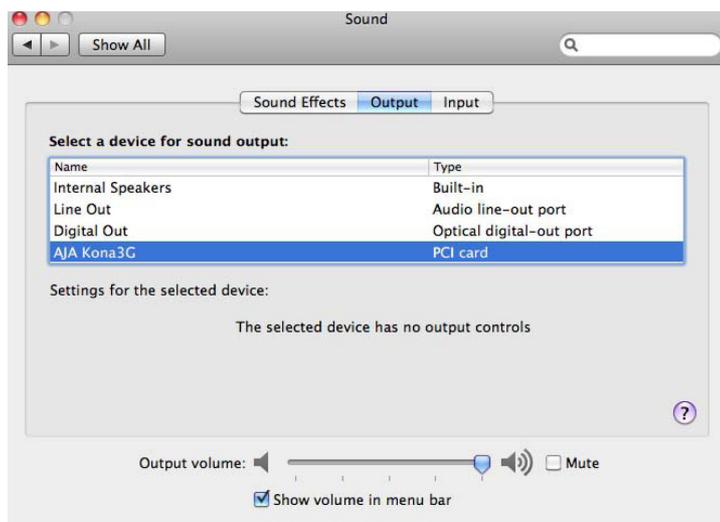
0
3
5
✓ 10

オーディオ出力の設定方法

KONAはCore Audioに対応しているため、いろいろなアプリケーションからシステム音、またはオーディオを出力することが出来ます。この設定は「システム環境設定」>「サウンド」で行います。



「サウンド」では、使用できる出力装置を選択することが出来ます。出力の項目でリストされているAJA KONAを選択します。



これでFinal Cut Pro Xを編集に使用する間、AJA KONAからビデオとオーディオのプレビューが出来るようになります。

ノート：編集集中に出力されるビデオはあくまでプレビュー品質です。

使用されるグラフィックスカードの種類や枚数、あるいはモニター解像度などがKONAのMacintosh Desktopモードの能力に影響を与えるかも知れないことをご了承下さい。最適な結果を得るために、1枚のグラフィックスカードと1台のコンピュータディスプレイのみの使用に留めることを勧めます。

最高品質での取り込み、および出力は、後述の"AJA VTR Xchange"アプリケーションを使用します。

Final Cut Pro Xの設定

Final Cut Pro Xのユーザーインターフェイスには1つのビューアーウィンドウがあります。KONAに接続されたビデオモニターでビューアーを確認するためには、Final Cut Pro Xの「ウインドウ」メニューで「ビューアーをセカンドディスプレイに表示」にチェックを入れ、ビューアーウィンドウをKONAの出力に設定します。

Minimize	⌘M
Minimize All	
Zoom	
Go to Event Browser	⌘1
Go to Viewer	⌘3
Go to Timeline	⌘2
Go to Inspector	⇧⌘4
Show Project Library	⌘0
Hide Event Library	⇧⌘1
Show Timeline Index	⇧⌘2
Hide Inspector	⌘4
Show Color Board	⌘6
Show Video Scopes	⌘7
Show Audio Enhancements	⌘8
Show Audio Meters	⇧⌘8
Media Browser	▶
Record Audio	
Background Tasks	⌘9
Next Tab	⇧⌘→
Previous Tab	⇧⌘←
Show Events on Second Display	
Show Viewer on Second Display	
Revert to Original Layout	
Bring All to Front	
✓ Final Cut Pro	

ノート：AJA Macintosh Desktopモードを使用する場合、Macに接続されるコンピュータディスプレイは1台に限られます。

ビューアーウィンドウがビデオモニターに表示されたら、UI表示を消すため、ビューアーウィンドウの右下にあるフルスクリーンオプションを選択します。



UI表示は消え、ビューアーウィンドウでビデオモニターが満たされるはずですが。ビューアーは、編集/スキミングの動作を問わず、マウスの位置に基づいた描画/更新を行います。

PART 2：クリップのキャプチャー

AJA VTR Xchange と Final Cut Pro X

Final Cut Pro Xの大きな変化の1つは、アプリケーション内でのキャプチャー機能「切り出しと取り込み」が削除されている事です。AJAは数年間にわたり、AJA VTR Xchangeと呼ぶキャプチャーソフトを無償で提供してきました。AJA VTR Xchangeはその名の通り、VTRを使ってのキャプチャと書き出しを行うアプリケーションで、キャプチャツールとして用いることができます。最新のAJA VTR Xchangeにはバッチキャプチャー機能も実装され、以前のFinal Cut Proに備わっていた「切り出しと取り込み」ツールのように使うことができます。

AJA VTR Xchangeアプリケーションは、AJA KONA X Beta ドライバに含まれます。

ノート：AJA VTR Xchangeは、スタンドアロンアプリケーションとしてもダウンロードすることが可能です。

ただし、AJA VTR XchangeはAJAデバイスのみをサポートするのでFireWireベースのカメラやVTRからのキャプチャーには使うことが出来ません。

AJA VTR Xchangeの詳細は、AJA VTR Xchange 5.0を参照して下さい。

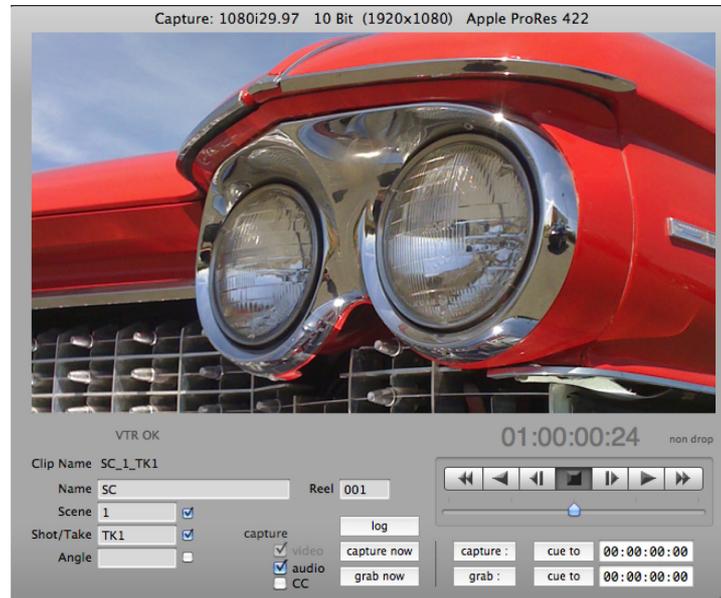
重要：コーデックのインストール

前バージョンのFinal Cut ProとFinal Cut Pro Xのもう一つの違いは、インストール時に追加コーデックがインストールされないことです。例えばApple ProResファミリーでキャプチャーしFinal Cut Pro Xで使用するには、VTR Xchangeを使う前にFinal Cut Pro Xのインストールして、ソフトウェア・アップデートを行い、ProAppsQTCodecs.pkgをインストールする必要があります。

ノート：AJA VTR Xchangeを使ってキャプチャーを行う前にこの作業を行うことは非常に重要です。ソフトウェア・アップデートによりコーデックが追加インストールされていない状況では、非常に限られた数のQuickTimeコーデックしか使用する事が出来ません。

AJA VTR Xchangeの設定

AJA VTR Xchangeはデフォルトの起動において、入力されているビデオ信号がメインUIにプレビュー表示できるように自動設定されます。



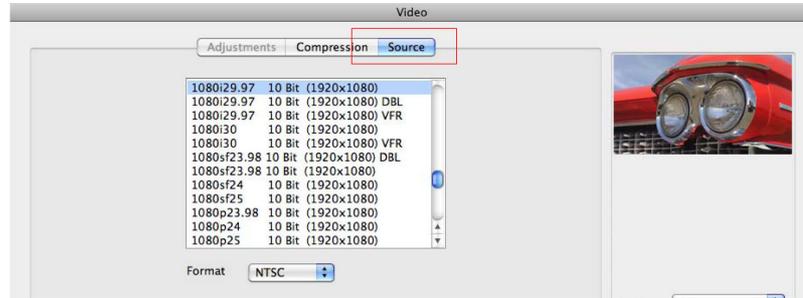
ただし、自動設定された設定が必要とされる設定になっているとは限らないので、「Capture」>「Video Settings」あるいは「Audio Settings」で適切な設定を確認する必要があります。

Capture Now ⌘K

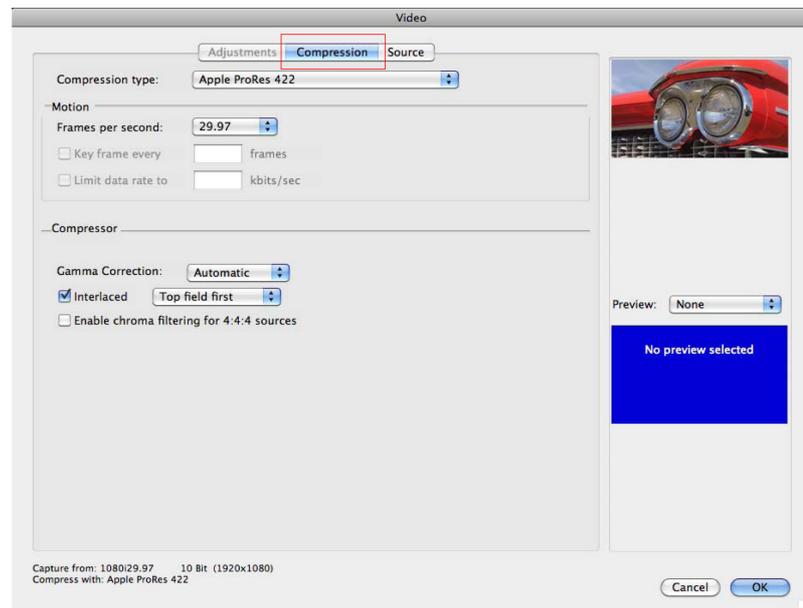
Video Settings...

Audio Settings...

Final Cut Pro Xで使うクリップは、ほとんどの場合Apple ProResコーデックでキャプチャーすることになるでしょう。AJA VTR Xchangeを使ってApple ProResコーデックキャプチャーを行うには、「Capture」>「Video Settings」を開き、最初に「Source」タブを開きます。フォーマットリストを確認し、Apple ProResコーデックが10ビットコーデックであるので、ソースとして"1080i29.97 10bit (1920x1080)"を選択します。

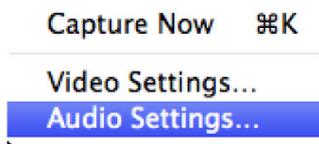


ついで、「Compression」タブを選択し、圧縮タイプでApple ProRes422(HQ)など任意のタイプを選択します。

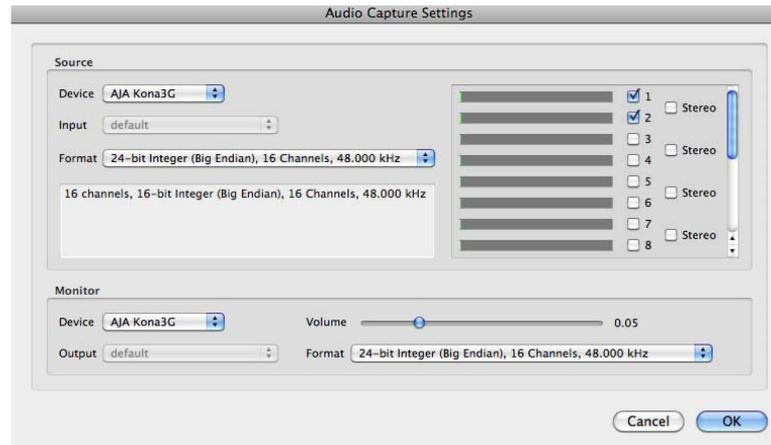


SourceとCompressionの設定が完了したら、ウィンドウ右下の「OK」をクリックします。

次に「Capture」 > 「Audio Settings」の設定を行います。



「Audio Settings」では、キャプチャーする音声チャンネル数とMono/Stereoの別、そしてオーディオフォーマットの設定を行うことができます。

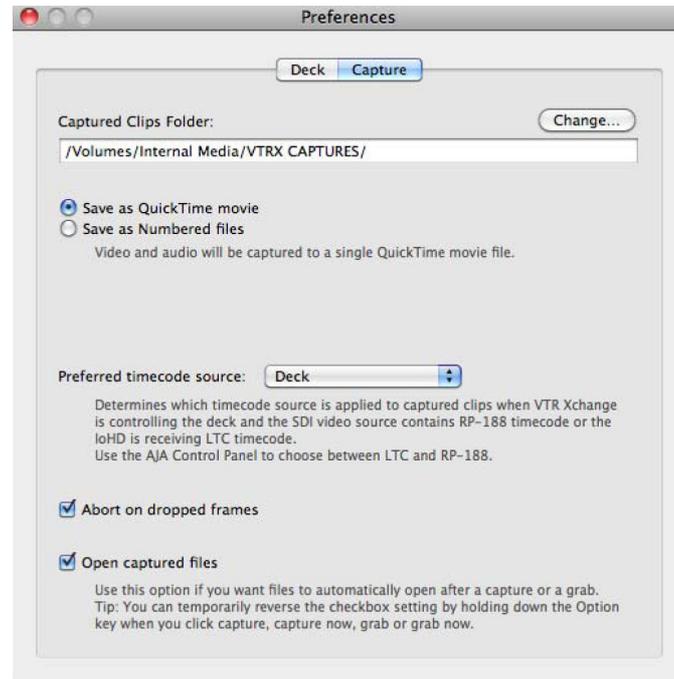


設定が完了したら、ウィンドウ右下の「OK」をクリックします。

切り出しと取り込み

キャプチャーを始める前に、クリップをどこに保存するかを設定します。AJA VTR Xchangeのプルダウンメニューから「Preferences」を開き、「Capture」タブにある Captured Clips Folder : の「Change」ボタンでクリップの保存先を選択します。

ノート：保存先にキャプチャーしようとしているコーデックとフォーマット、およびフレームレートをサポートできる帯域幅と十分な領域が確保されていることを確認して下さい。

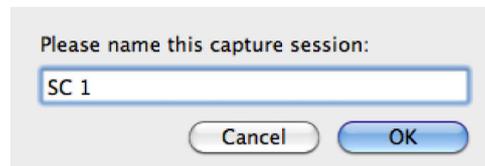


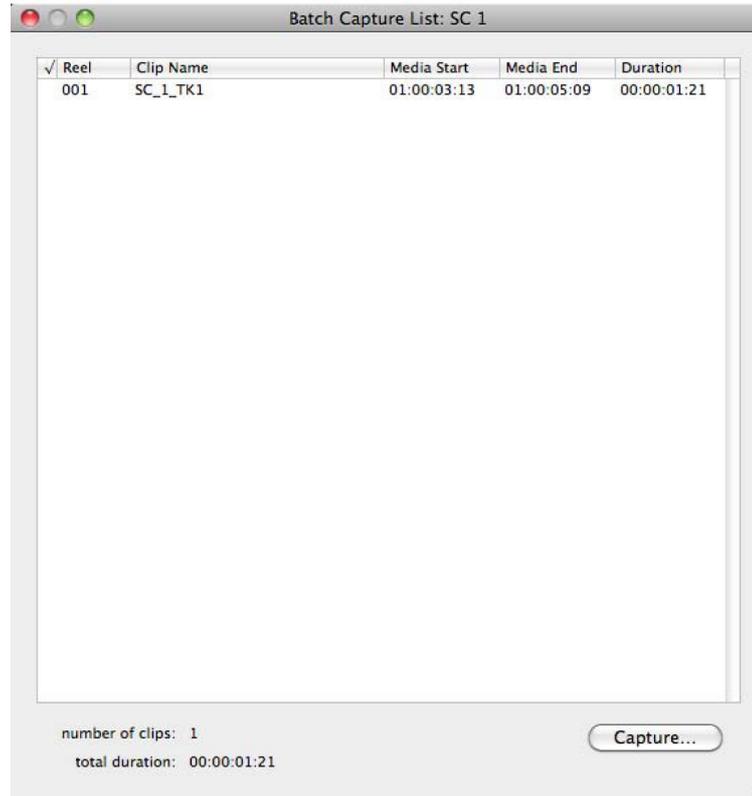
任意の保存先を設定したら「Preferences」ウィンドウを閉じて下さい。

AJA VTR Xchangeのオペレートは非常に簡単で、おなじみのJ - K - Lキーによるキーボード命令によるVTR制御も行えます。



テープ上にイン点、アウト点をマークし"log"ボタンを押すことで新しいバッチキャプチャリストを作成します。





バッチキャプチャーリストにすべてのクリップを登録すれば、ウインドウの右下にある「Capture」ボタンをクリックすることで、1度にすべてのキャプチャーを実行することができます。

ノート：キャプチャーリストはXMLファイルとして保存されるので、後に開いて再度バッチキャプチャーを行うことができます。

PART 3 : クリップのインポート

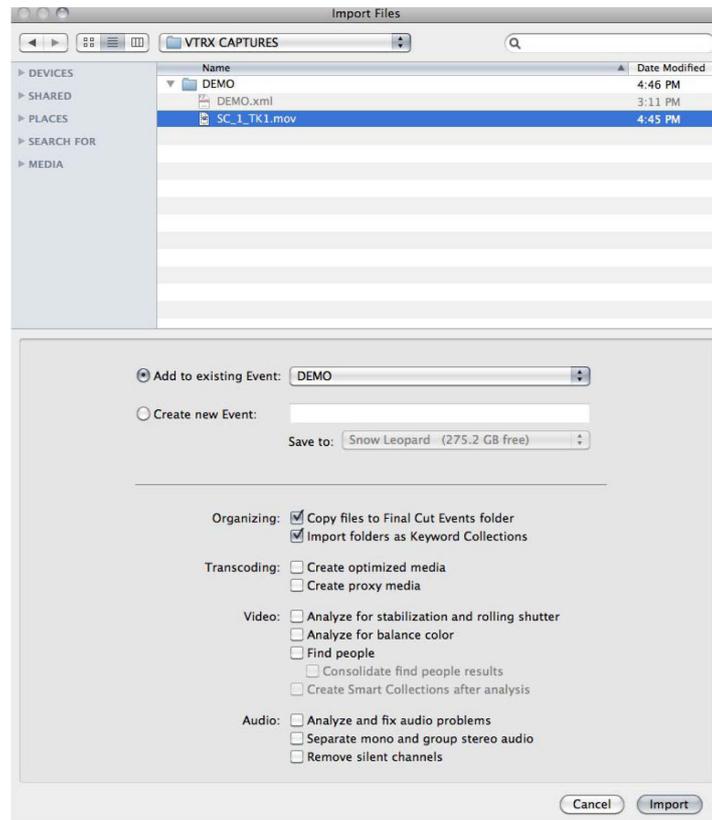
Final Cut Pro Xへのインポート

Final Cut Pro Xは、前バージョンのFinal Cut Proと異なり、メディアをインポートします。メディアはFinal Cut Pro Xのイベントに読み込まれます。イベント名はデフォルトで現在の日付となりますが、プロジェクト管理に都合の良い名前に変更することが可能です。

「ファイル」>「新規イベント」で新しいイベントを作成したら、表示される「ファイルを読み込む」アイコンをクリックしてクリップを読み込みます。

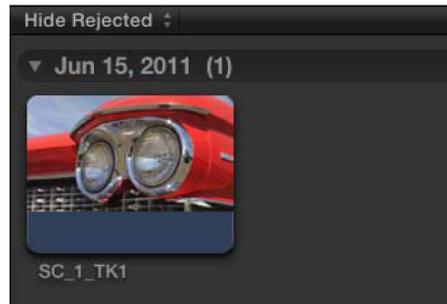


クリックして開いたウィンドウで読み込みたいクリップを探します。

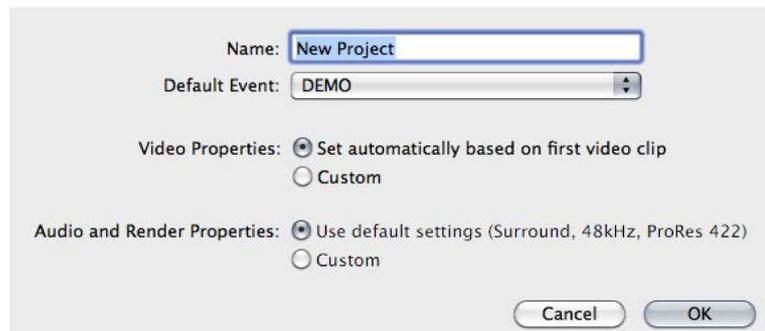


Final Cut Pro Xは、ユーザーが選択できるいくつかの読み込み処理を提供します。Final Cut Pro Xのドキュメントを参照し、適切な設定のもと右下の「Import」ボタンで読み込みを実行して下さい。

読み込まれたクリップが、作成されたイベントに現れます。



ファイルの読み込みと同様に、任意の設定をして新規プロジェクトを作成します。



クリップをプロジェクトタイムラインに配置して、スクラブ、マーカー、アウト点の付加、キーワードアサインなどを行うことができます。編集についての詳細はFinal Cut Pro Xのドキュメントを参照して下さい。

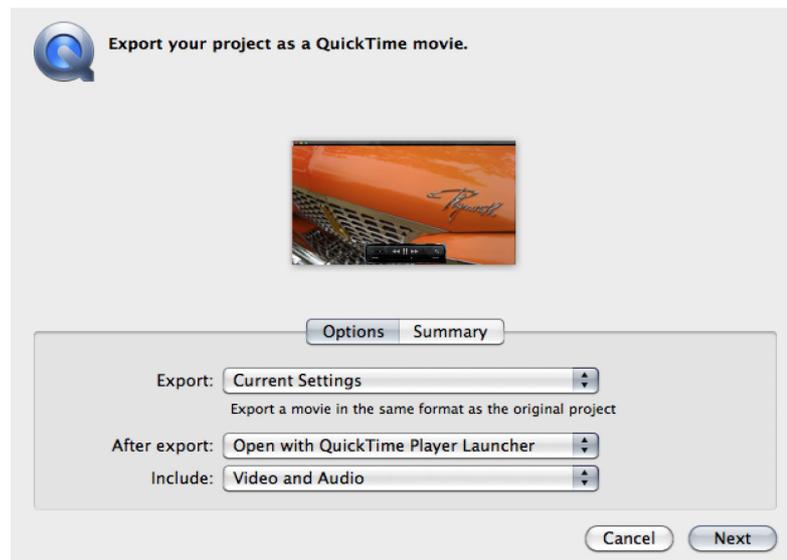
PART 4 :Final Cut Pro XとAJA VTR Xchangeからテープへの書き出し

Final Cut Pro Xからのクリップ書き出し

Final Cut Pro Xでは、テープへの書き出し方法が変更になりました。前バージョンのFinal Cut Proは、「テープに編集」機能を使うことでテープへの書き出しが行えましたが、Final Cut Pro Xにはその機能がありません。Final Cut Pro Xでは、はじめにQuickTimeムービーファイルとして書き出し、出力されたファイルをAJA VTR Xchangeを使ってテープに書き出します。

ノート：AJA VTR Xchangeはインサート編集を実行することしかできません。出力のためには、VTRの内蔵ジェネレータを使用したタイムコードや黒味入れなど、事前のフォーマット作業が必要となります。

Final Cut Pro Xのプロジェクトを選択し、「共有」>「ムービーを書き出す」と選択します。



ほとんどの場合、デフォルト設定のままQuickTimeムービーファイルを書き出す事ができるでしょう。セッティングを変更したい場合は、Appleのドキュメントを参照して下さい。設定が完了したら「Next」ボタンをクリックします。

次いで、任意のクリップ名をつけて保存先を選択します。保存先には書き出すファイルタイプをサポートできる帯域幅と十分な領域が確保されていることを確認して下さい。

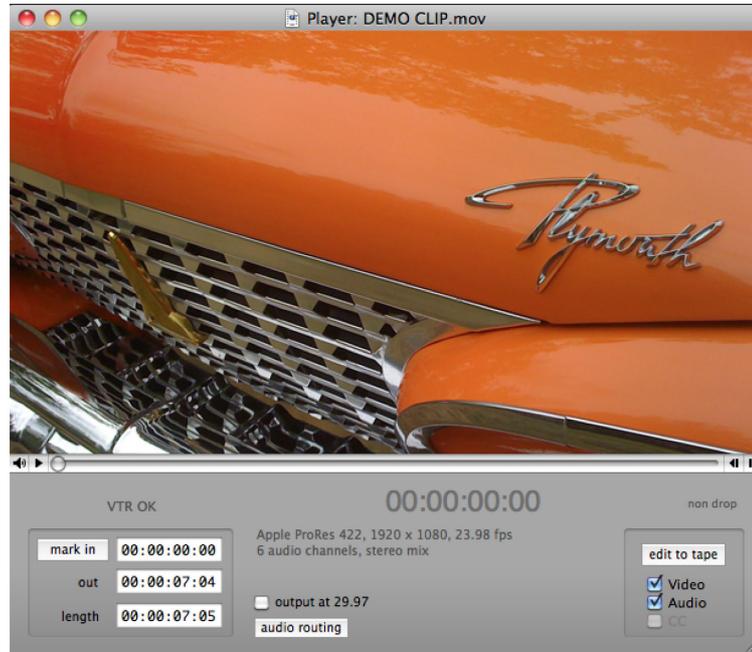
書き出されたムービーファイルは、AJA VTR Xchangeを使ってテープに書き出す前に、QuickTime Playerで開いてレビューを行って下さい。

もし、修正が必要であると感じる場合は、再度Final Cut Pro Xからの書き出しを行って下さい。

AJA VTR Xchangeからのテープへの書き出し

AJA VTR Xchangeを起動し、「File」>「Open」を選択してください。書き出したQuickTimeムービーファイルが保存された場所をたどり、QuickTimeムービーファイルを選択します。

VTR Xchangeは、選択したムービーファイルを新しいプレビューウィンドウで開きます。



テープに編集を行う前に、QuickTimeムービーファイルをレビューすることが出来ます。

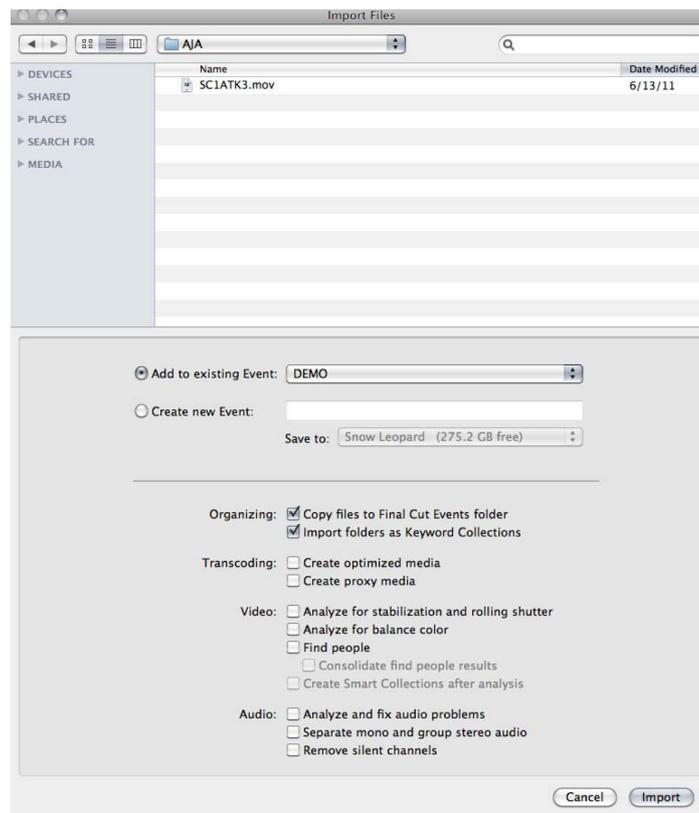
編集を掛けるイン点、アウト点、ならびに"audio routing"の適切な設定を行い、設定が完了したら"Edit to tape"ボタンで書き出しを実行します。

書き出し後は、AJA VTR Xchangeのメインインターフェイス上、あるいはVTR上で書き出し結果を確認することが出来ます。

PART 5 : AJA Ki Pro ProResレコーダーとFinal Cut Pro X

Ki Pro / Ki Pro mini の価値

2009年、AJAは世界初のApple ProRes422ビデオレコーダー「Ki Pro」を送り出しました。Ki Proはさまざまなカメラと接続でき、Final Cut Proで即座に編集できるQuickTimeムービーファイルをカメラから直接収録することを実現します。2010年には、よりコンパクトなKi Pro miniをラインナップに加えています。Ki Pro、およびKi Pro miniによって収録されたファイルは、Final Cut Pro Xが動作するシステムストレージにコピーすることができ、そしてFinal Cut Pro Xのイベントへも読み込むことが出来ます。Ki ProファミリーはFinal Cut Pro Xと組み合わせて使用するのに、まさに理想的です。



PART 6 : サマリー

編集の新しいあり方

Final Cut Pro Xはエディターに新しい編集方法を提示します。従来のFinal Cut Proユーザーになじみのアイテムにも変化がありました。しかし、Final Cut Pro Xは非常に柔軟で魅力的です。Final Cut Pro XとAJAのデスクトッププロダクトを組み合わせることで、取り込み、編集、書き出しなどの作業をユーザーに馴染みのある方法で提供することが出来ます。また、AJAのKi ProとKi Pro miniはFinal Cut Pro Xとの組み合わせにおいては、最も現代的なファイルベースワークフローを実現します。このドキュメントで説明されるワークフローは、Appleが提唱するノンリニア編集の新しく、そして刺激的なフェーズへと移行するユーザーをサポート出来るようにデザインされています。AppleのFinal Cut Pro Xの発展とともに、AJAは新しくエキサイティングな相互作用を提供することで、ワークフローの可能性を広げていきます。

より詳細な情報については、AppleのFinal Cut Pro X ドキュメント、あるいはAJAの製品ドキュメンテーションを参照して下さい。